

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099200026		
法人名	株式会社 よしなが		
事業所名	グループホームマイライフ（うぐいす棟・うめ棟）		
所在地	〒822-1405 福岡県田川郡香春町大字中津原1965番地 Tel 0947-85-9623		
自己評価作成日	令和02年02月10日	評価結果確定日	令和02年03月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294
訪問調査日	令和02年03月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関正面に香春岳を配し、広い敷地には古木(樹齢100年越え)の梅ノ木がある敷地横には日田彦山線が走り列車の音を懐かし利用者也居る。春になると八重桜の花・もくれんの花が咲き、お天気の良い日にはあおぞらカフェを開き飲み物やケーキ・お菓子を食べ季節を感じる事ができる。園庭や苑内を毎日散歩するのが日課になっている。苑内では利用者の生活・行事・外出時の写真が廊下に所狭しと展示されている。面会にこられたご家族や見学にこられた方達も楽しそうに観られて居ます。出来る事・楽しい事・現在できている事を少しでも長く維持出来る様にケアプランの作成をお願いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR日田彦山線沿いにある「マイライフ」は、満開の河津桜を見下ろせる自然豊かな環境の中で定員18名のグループホームである。瀟洒な建物の壁面には、利用者の笑顔の写真の掲示や季節毎の装飾が行われ、施設長の介護に対する熱い想いが職員に浸透し、温かな雰囲気グループホームである。利用者一人ひとりの希望を優先して主治医を決定し、ホーム提携医による往診体制と看護師、介護職員が協力して、24時間安心の医療体制が整っている。利用者の能力に合わせて、プーリーやエアバイク、手すりを利用したスクワットや歩行訓練を積極的に行い、利用者のQOLの維持、向上に繋げ、病院からの入居で、寝たきりの紙オムツ使用の利用者が、布パンツで歩行できる等、状態の改善を見守る家族は、喜びと感謝に包まれ、利用者や家族と深い信頼関係が築かれている「グループホーム マイライフ」である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 目	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、入所者・スタッフが一緒に唱和し一日の始まりとしています。	開設時に職員全員で話し合って作った、「マイライフの基本理念」を見やすい場所に掲示し、毎日の朝礼で、利用者と職員と一緒に唱和している。笑顔で明るく元氣よく挨拶する接遇の基本や、優しさや思いやりを大切にする介護、地域密着型事業所として地域に根ざす事を盛り込み、職員一人ひとりが理解して実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や施設の行事(神幸祭り・ふれあいフェスタ・マイライフ祭り)には参加し合い交流を深めている。参加時に昨年居た方の顔が見えなかったときなど近況を聞かれることもある。	利用者と職員は、ふれあいフェスタへ参加し、廃品回収の協力、神興祭の山車見物等も継続し、保育所の子どもの太鼓演奏の慰問や、高校生の実習やボランティアの受け入れを行い、地域との交流を深めている。「マイライフ祭り」には、たくさんの地域の方や家族の参加があり、利用者と楽しい時間を共有している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	リサイクル回収が4回／年あり、ダンボールやアルミ缶等を苑内で集め回収に来て頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・区長・包括・議員さん等に案内を出し、出席をして頂いている。施設内での行事報告や入所状況などを報告すると共に出席者の意見や疑問点等の話し合いを行いサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月毎に参加し、ホームの利用状況や行事、取り組み等の報告を行い、参加委員からは、質問や要望、情報提供を受けて話し合っている。出された意見や情報については、関係者で検討し、サービスの向上に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政(介護福祉課)には、福祉関係で分からないことや更新手続き等有り。連絡はよく取り合っている。また包括支援センター職員も空室が出来たら連絡してほしいとの声掛け有り、常に情報提供をしている。	行政職員や地域包括支援センター職員が出席して2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、ホームの運営や取り組みを報告し、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。また、施設長を中心とした職員のチーム介護で、困難事例を早期に改善できる事業所として、行政からも頼りにされている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、機会ある毎に話し合いを行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。 (4点柵・施錠・食事用エプロン・車椅子ベルトなど)	身体拘束について、職員会議や研修会の中で、身体拘束について研修を受けて、職員一人ひとりが理解を深めている。また、日常的に、気になった事、気づいた事を職員間で話し合い、禁止行為についての具体的な事例を挙げて検証し、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで虐待についての話し合いの機会を持っている。何気なく発している言葉・態度が虐待に繋がる事なども見逃さないように注意をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度・日常生活自立支援事業についての話し合いや研修等にて勉強会を行っている。成年後見制度については1人申し立ての手続きを行ったが手続き途中で死亡され利用できなかった。	職員会議の中で、権利擁護の制度について学ぶ機会を設け、職員は制度の理解に努めている。入居時に必要かと思われたケースについて、家族、包括と相談した事例があり、利用には繋がらなかったが、改めて制度を理解する機会になった。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、入所時に説明を行い理解いただいていると思うが、時間が経つと忘れることもあるので施設側より不安・疑問点がないかを尋ねるようにしている。苦情になる前に家族より気になることは聞き出すようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃よりご家族や利用者には要望等を聞きだしスタッフと共有できるようにしている	気軽に来訪してもらえるように声掛けや環境作りに取り組んでいるので、家族の面会も多く、面会時や電話連絡の中で、家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、職員間で検討して、ホームの運営や利用者の日常介護に反映出来るように取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場に社長の出席をお願いし意見を聞く機会を2回／年程度作っている。	夕食を食べながら、職員会議を18時半から開催し、職員の意見や要望、心配な事等、意見が言いやすい雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。会議の中で、カンファレンスや研修会も実施し、職員の介護技術と知識の向上を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務状況・資格を考慮し給料を決めている。2回／1年自己評価票を提出してもらいボーナスの査定を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当施設では、年齢性別に関係なくやる気のある方であれば採用して働いて頂き、趣味や休養が取れるようにスタッフの希望も4回／月はかなえられるように勤務表を作成している。	職員の休憩室や休憩時間、希望休等に配慮し、職員が働きやすい職場環境を整えている。管理者は、職員の特技や能力を把握し、生き生きと勤務出来るよう配慮している。職員の募集は、年齢や性別、経験等の制限はなく、採用後は、それぞれの経験や能力に合わせて研修参加に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	(株)よしながでスタッフ全員が参加できる研修会を行い人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、利用者一人ひとりの個性や生活習慣を把握し、それぞれに合わせた声掛けや対応に取り組み、利用者が安心して穏やかに生活出来る環境を目指している。行政主催の人権研修会に参加し、利用者の尊厳を守る介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの能力や経験に応じた研修への参加を心がけている。施設内での介護実習は日々のケアの中でその都度行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川地区・香春町の介護サービス協議会に参加・また職場交換会などの機会を利用し相互訪問活動を通じお互いの良いところは取りいれている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に、ご家族より要望や不安に思っている事・好きなこと(趣味など)の聞き取りを行い、最初にコミュニケーションをとりながら不安を取り除き安心して生活出来るように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の情報(ケアマネ・ソーシャルワーカー)を基本に入所後の希望・要望を聞くことで、悩みや困りごとを解決しよりよい関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時までの基本情報を元に一緒に話し合いながら必要と思われるサービスを提供出来る様に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はスタッフと一緒に行う事で喜びを分かち合うことでよい関係性を築けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族やご本人の希望があれば少しの時間での外出や外食等の機会を大切にしている。外出や外食等困難なご家族はご本人の誕生日にケーキを持ってきて一緒に食べて下さり、ご本人やご家族の喜ぶ姿(関係性)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や遠方の家族等とは疎遠になりがちだが行事などある時には声掛けを行い一緒に参加できるようにしている。また、遠方の家族には近況報告や写真等を送り生活状況を見えるようにしている。	利用者の友人、知人、家族の面会も多く、ゆっくり寛いで利用者と楽しい会話ができる支援に取り組んでいる。家族の協力を得て、自宅への帰宅や馴染みの場所への外出等、利用者が長年築いてきた馴染みの人や地域社会との関わりが途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同年輩の利用者・性格の合う利用者・趣味の合う利用者同士を同じテーブルや近くのテーブルで過ごしてもらう事で孤立を防止する事が出来ている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族がボランティアにて毎月ヘアカットに来てくれている。また、自宅へ帰り現在は入院されているが、ご家族(ロンドン在住)よりTELをくれたり、帰宅した時には施設に立ち寄ってくれる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や早い時期に生活歴などを聞きだし情報の中から希望や意向等を把握できるようにしている。 (ご家族・本人・担当者)	職員は、利用者とコミュニケーションを取りながら、日常会話の中から利用者の思いや意向を聴き取っている。利用者一人ひとりの個性や生活歴を知り、会話を提供したり、家族からも出来る限り多くの情報を得るようにして、利用者がホームの中で、生きがいのある暮らしが出来る支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族より生活歴を聞き取りさせてもらったり、ご本人より教えて頂き生活年表を作成して居る。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者の趣味やケアプランに沿った生活を基本とし、その日の心身状態により中止する。レクなどを通じ利用者の意外な面を見出すことができる。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時にご家族・ご本人・スタッフ(担当者)・医療関係者よりの情報を元に利用者がその人らしく生活出来る様な介護計画を作成している。	担当職員は、利用者や家族と話す機会を設け、意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングで検討し、職員間で検討し、利用者一人ひとりの状態に合わせた介護計画を定期的に作成している。また利用者の状態変化や重度化に合わせて、家族や関係者と話し合い、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	10月よりICT(ペーパーレス)を取り入れ日々の状態の記録はスマホ・タブレットを使い記入。職員間での共有が簡単になり実践・介護計画の見直しにかつようしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との信頼関係を作り家族より話し易い環境づくりに努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医の往診・近隣のスーパーへの買い物・保育園児の慰問によりふれあいなどにより安全で楽しく過ごせるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入所時に家族やご本人の希望を聞き出来るだけ入所前のかかりつけ医に往診のお願いをしご家族・ご本人・かかりつけ医との関係を大切にし緊急時の医療に対しても適切な医療が出来る様に支援している。	入居時に利用者や家族と話し合い、希望を聴きながらそれぞれの主治医を決めている。以前からのかかりつけ医による往診と、協力医療機関の月2回の往診が出来る体制を整え、利用者の健康管理は充実している。主治医とは密に情報交換を行い、信頼関係を築き、利用者の医療情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が勤務している時には、状態変化や受診時の情報を伝達し適切な看護を受ける事が出来る様に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、Dr・担当Ns等と情報交換を行い退院後の受け入れなどの相談に努めている。状態により医療機関の転院等あるため医療連携室(ソーシャルワーカー)との連携もうまく出来ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入所時に説明をしているが状態変化を見ながら終末期の選択肢を家族等と話し合いながら希望に添えるように支援をしている。(自宅・病院・施設等)	契約時にターミナルケアについて利用者や家族に説明している。利用者の重度化が進むと、家族と常に連絡を取りながら、主治医や訪問看護師も交えて方針を確認し、看取りが出来る系列施設での受け入れや、症状によっては病院への転院等を検討しながら、ホームで出来る終末期の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を定期的実践している(熱発時・バイタル異常時・打撲・表皮剥離などの初期対応を行い受診必要かどうかの判断を実践にて身につけている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する訓練は2回／年行っているがその他の災害についてはマニュアルのみである。	日頃から、非常災害時に利用者の見守り等の協力を地域の方に要請し、非常食や飲料水の備蓄と医療情報をすぐに持ち出せる準備をしている。年2回、設備業者に水消火器を持って来てもらって避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認している。	夜勤者を中心に夜間想定訓練を何度も行い、夜勤帯に職員2名で18名の利用者の避難誘導が速やかに行えるよう、手順を確認する等、安心できる体制作りが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉使いはそれぞれの生活歴を周知しご本人への声掛けを行うようにしている。	利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護サービスについて、その人に合った声掛けや言葉を選び、プライドを傷つけないような対応を心掛けている。利用者が重度化しても、個別支援を徹底して行う事で状態が改善している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いする事は出来るだけ避け、本人に声掛けする事で自己決定出来る様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入所者優先で、その人のペースに沿った支援を行っている。(今日一日を大切に明日を考えずに楽しく過ごせるように心がけている)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・就寝時の衣類交換(パジャマ)や外出時は特に洋服等のコーディネートを利用者と一緒に考えている。自分で出来る方は、洗面後・入浴後に化粧水や乳液をつけたり、マユを描いたりして頂く。起床時の髪の毛をとかすなど。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを施設内で行っていないため一人ひとりの好みに合わせることは出来ないが、下膳・食器洗い・トレ拭きなどの手伝いをお願いしている。	カロリー計算や栄養バランスの摂れた配食サービスに取り組み、検食による意見や要望を随時挙げて改善に向けて取り組んでいる。朝食と日曜日はホームで、職員が食事作りとなるため、利用者の力に合わせて、野菜の皮むき等の準備を一緒に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1000～1200cc／日を目標としている。栄養状態の悪い方については、ご家族と相談しメイバランスなど高栄養の物を持ってくる家族もおられます。カリウム値の低い方にはバナナを毎日摂取してもらうことで改善。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行い、スタッフ上手く磨けて居ない所や舌・歯ぐきに関してはハミングッドHを使い口腔内の清潔に心がけている。1回／週訪問歯科による口腔ケア・口腔リハビリを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握は出来ているので、その人にあった時間に声掛けを行いトイレでの排泄が出来る様に支援している。また、自分から訴えないが動作観察にてトイレ誘導を行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、病院から入居でオムツ使用の方も、その日の内に外す等、自立支援に向けた排泄の支援を積極的に行っている。また、夜間も、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの入所者が便秘症があるため、一番気にかけている所である。冷たい牛乳を飲んでももらったり、ケアプランの中に歩行等の運動を取り入れいる。便秘薬も個々の状態で違う為Drと相談しながら処方の見直し等も行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決めているが、そのときの気分により入浴拒否等あった場合は時間をずらしての声掛けや曜日を变えて声掛けすると入浴出来るときに入浴をして頂いている。ご家族の協力により入浴がスムーズに出来る事もある	入浴は利用者の体調や希望に合わせて支援し、一番風呂が好きな方、長湯や熱い湯が好みの方等、出来るだけ配慮しながら湯船にゆっくり浸かってもらっている。入浴は、利用者と職員がゆっくり会話が出来る貴重な時間と捉え、日頃聴けない利用者の思いを聴き取っている。入浴拒否の利用者の為に、家族が週3回電話をかけてくれる等、協力を得ながら入浴して貰えるよう取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時間を決めず、ご本人の気分や状態により好きな時間に休息をとれるように心がけている。不安で寝付けない時等側に付き添う事で安心して眠れるようにスタッフの技量で行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の目的・副作用・用法についての情報はお薬手帳や薬局からのお薬説明書をタブレットの中の個々のお薬情報で共有できない服薬の変更等も申し送りを行い確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴は入所時にあらかじめ聞くようにしている。趣味・楽しみ等は、ご家族の協力の得られる物はお願ひして居る(色鉛筆・塗り絵・毛糸)強制ではなく、楽しみながら出来る事をしてもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	個々の希望に全部は添えないが、家庭ではいけない所(お花見・初詣・地域行事への参加)への外出。ご家族の協力にて、外食等の支援を行っている	天気の良い日には、外でお茶を飲んだり、手作り弁当を持っての紅葉狩り、花見帰りに道の駅に寄っておやつを食べて帰る等、利用者の気分転換に繋げている。毎朝ラジオ体操の後に、利用者と職員と一緒に散歩をするのが日課となっている。また、家族と一緒に出掛ける外食も、利用者の楽しい外出である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は、数名自分で小さな金額を持ち管理していたが、介護度が上がり管理が出来なくなった為お金を所持している入所者は居ない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が面会時、スマホにてご兄弟や子供さんと電話をして近況をつたえている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者にとって居心地の良い場所となるように広く廊下やホールには季節ごとの行事の写真や工作などを展示している。	広い敷地の庭園の中で、梅の花を眺めながら、鶯の声を聴く、季節感あふれる環境である。環境整備は、細かく丁寧に行い、清潔を保つようにしている。ゆったりとした造りの室内は、季節毎の装飾や利用者の笑顔の写真が一面に飾られ、自分の顔を探しながらの屋内散歩も利用者の楽しみである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの両端に座る場所を設け、一人で好きなときにテレビを観たり、気の合う友達同士の席を一緒にし仲良くお話出来る様にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は、ご家族により新しい物を買ってこられるご家族が多い。 使い慣れたものなどは持ってこられないことが多い。	入居前に利用者と家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や身の回りの物、大切な物を持ち込んで配置して貰い、出来るだけその方らしい居室となるように工夫している。家族が訪問した事を忘れないように、来訪時に写真を撮って壁に貼る等、利用者の記憶を呼び起こし、家族や関係者との関わりを大切にしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけご自分で出来る事は急がせずマイペースで出来る様に配慮(洗濯物たたみ・お茶碗洗い)し、スタッフと一緒にして頂いている。テレビを自室で見られる方は番組表を提供。		